

2008（平成20）年度予算について

学 校 法 人 桃 山 学 院
理 事 長 坪 井 清

2008（平成20）年度学校法人桃山学院の予算は、予算会議の議を経て、2008年3月25日（火）開催の理事会、評議員会で承認され成立いたしましたので、ここに予算の概要と予算書類の公開を以下のとおり行ないます。

主 な 事 業 予 算 の 概 要

[周年記念事業の推進]

(1) 記念事業・イベント等の実施

2009年に学院創立125周年・大学開学50周年をむかえるにあたり、当年に実施する記念行事や記念式典の計画・準備、2009年度に刊行の記念誌の編纂に着手します。2008年度については、桃山フェスタ（プレ50周年フェスタ）、桃山学院フェア、記念講演会やクリスマス関連イベント等を実施します。また、2007年度に引き続き記念事業寄付金の募集を行ないます。

(2) 昭和町キャンパス新体育館建設

学院創立125周年記念事業および中長期ビジョンのさらなる推進事業として、高等学校におけるスポーツ活動の充実を図るため、新体育館を建設（2009年4月竣工予定）します。

(3) 和泉キャンパス記念館建設

大学開学50周年記念事業および中長期ビジョンのさらなる推進事業として、和泉キャンパスにおいて大学での活動拠点施設として、記念館を建設（2009年4月オープン予定）します。この施設は国際交流の多様化と拡大を支え、また、キャリア形成支援など大学教育改善に資する機能を保有するものです。

[学院の総合学園構想の推進]

(1) 中学校開校

本年4月開校の桃山学院中学校の運営費を計上します。この中学校は既設の桃山学院高等学校を基軸とする中高一貫型のものであり、6年間の一貫教育を通して、難関国公立・私立大学および海外への大学進学を目指す学力を養成します。

[教学条件の整備・充実]

(1) 国際交流の推進

「世界の市民」の養成をめざし、国際交流のさらなる推進・充実のため、交換留学における受入・派遣留学生への支援強化、国際スポーツ交流の推進、海外協定校拡充にむけての候補大学視察等の現地調査など国際交流充実のための諸取り組みを行います。

(2) 国際教養学部英語特待生留学制度

2008 年度開設の国際教養学部英語コミュニケーション専修に所属する学生を対象に、英語圏における長期留学に向けての英語力養成を目的とした留学制度です。参加学生に対して、留学先大学の授業料負担・奨学金の支給を行います。

(3) 情報インフラ整備

2006 年度に更新してレベルアップした学内情報ネットワークシステム（S A I N T ）により、学内情報流通の一層の効率化をはかります。また、事務システムについても 2007 年度より継続して更新（オープン化）し事務の効率化につとめます。高等学校においては、教職員用パソコンを更新し、より円滑な業務遂行をめざします。

(4) マルチメディア教育の推進

A V 設備、パワーポイント等を使用した授業に対応しマルチメディア教育を推進するため、全講義教室をマルチメディア化するため、システムの導入を行います（2 カ年計画の 2 年目）。またゼミ教室についても、全室に A V 機器を設置することとし、未設置分については 2 カ年の年次計画で導入を行いません。

[学生生活支援の充実]

(1) キャリア形成・就職支援

2007 年度に設置したキャリアセンターにおいて各種キャリアデザインプログラムの実施など、より質の高いキャリア支援サービスを提供することを通して、卒業後も長く社会に貢献できる人材の育成に努めます。また、1 年次生よりの適正検査実施や、各種セミナーおよび就職合宿の実施などを通して、職業意欲の高揚をはかるなど就職支援体制の強化充実をめざします。

(2) 新種奨学金の創設

入学後に優秀な学業成績を修めている学生への奨励支援策として、新たに「成績優秀者奨励奨学金」を創設し、学生への就学支援の一層の強化をはかります。

[スポーツ振興]

(1) 特別スポーツ強化

社会から注目度の高い複数の「チームスポーツ（サッカー・アメリカンフットボール）」種目を、常に全国大会レベルで競技し得ることを目標に特別に強化し、その活躍を通して学生諸君の本学への帰属意識の向上をはかります。また広く社会に本学の活気ある姿をアピールします。

[命の教育]

(1) A E D 普及による「命の教育授業」への取り組み

昭和町キャンパスの高等学校において、AED装置を取り入れた「命の教育・心肺蘇生法の授業」を積極的に推進します。なお、本校のこのような取り組み姿勢につきましては、すでにNHKテレビ等で全国的に紹介されました。

[施設設備の整備]

(1) 和泉キャンパス施設設備の維持管理

2007年度に引き続き、和泉キャンパス施設について年次計画に基づき補修等を行い、安定的な維持・管理につとめます(5ヵ年計画の5年目)。

(2) 昭和町キャンパス整備

2008年度の中学校開校にともない、高等学校のある昭和町キャンパスについてもカンタベリー館などの既存施設の改修等の整備を行ない、その有効活用をはかります。

[地域づくりの推進]

(1) 地域貢献・連携の強化

本学が南大阪を中心とした地域づくりに関して、「南大阪再生プロジェクト」や「地域学校教育支援」におけるボランティアやスポーツ等への学生を中心とする様々な活動を通して、地域貢献・連携の強化につとめます。

[広報・入試対策の強化]

(1) 戦略的広報

恒常的な広報費とは別に、入試戦略強化のための広報費、就職支援対策の強化のための企業向広報戦略費、大学の認知度およびイメージアップのための広報費、および2008年度開校の中学校における当初の強化広報費などを計上します。また、ホームページを更新して、内容等をより充実したものとし、内外利用者への一層の情報提供につとめます。

[財政基盤の強化]

(1) 特定資産の整備・拡充

財政基盤の強化のため、施設設備の維持再生資金である減価償却引当資産について、「期末減価償却累計額の少なくとも50%以上は確保する」という理事会決定に基づき当該引当資産への繰入れを行ないます。また、奨学資金引当資産や第3号基本金引当資産(国際基金)についてもそれぞれ積み増し(新規繰入)を行ない、当該資産の整備・拡充につとめます。

(2) 中期経営計画の策定

財政基盤の安定・強化にむけて、中長期的な視点にたつ設備投資計画などを盛り込んだ中期経営計画を策定します。

資金収支予算について

資金収支予算書は、予算編成を通して当該年度の諸活動に対応するすべての資金収入と資金支出の内容を明らかにするとともに、支払資金の顛末も明らかにする書類です。2007年度補正後予算額との比較で示せば下表のとおりです。

資金収支予算比較総括表

(単位：百万円)

項 目	2008 年度予算額	2007 年度補正後予算額	増 減
前年度繰越支払資金	4,789	5,458	669
資 金 収 入	13,566	12,696	870
資 金 支 出	13,603	13,365	238
次年度繰越支払資金	4,753	4,789	36

<注> 端数処理(百万円未満を四捨五入)の関係で合計額が合致しないことがあります。

以上のように資金収入につきましては、合計で8億7,000万円増の135億6,600万を計上しました。これは本年度開校の中学校の学費計上分、周年記念事業寄付金増、中長期ビジョン・周年記念事業の推進にかかる施設建設等のための特定資産取崩増などが主な要因です。

一方資金支出では、合計で2億3,800万円増の136億300万円を計上しました。この主な要因としては、既述の施設建設等設備投資にかかる施設関係支出増があげられますが、それ以外の人件費支出や管理経費支出などは総じて減少しています。

その結果、次年度繰越支払資金は3,600万円減の47億5,300万円を見込んでいます。

消費収支予算について

消費収支予算書は、予算編成を通して当該年度の消費収入と消費支出の内容を明らかにし、消費収支の均衡状態(経営状態)を表す書類です。2007年度補正後予算額との比較を表で表せば以下ようになります。

消費収支予算比較総括表

(単位：百万円)

項 目	2008 年度予算額	2007 年度補正後予算額	増 減
帰 属 収 入	10,725	10,498	227
基 本 金 組 入 額	2,738	1,883	855
消 費 収 入 (+)	7,987	8,615	628
消 費 支 出	10,991	11,119	128
当年度消費収支差額 (-)	3,004	2,504	500
前年度繰越消費収支差額	6,341	8,845	2,504
翌年度繰越消費収支差額 (+)	3,337	6,341	3,004

<注> 端数処理(百万円未満を四捨五入)の関係で合計額が合致しないことがあります。

以上のように帰属収入につきましては、2億2,700万円増の107億2,500万円を計上しました。これにつきましても資金収支同様、本年度開校の中学校の学費計上分、周年記念事業寄付金増が主な要因です。

基本金組入額は8億5,500万円増の27億3,800万円を計上しました。その中身につきましては、昭和町キャンパス新体育館の建設費、和泉キャンパス記念会館建設費といった設

備投資、図書や備品関係といった恒常的な資産取得のためのものです。

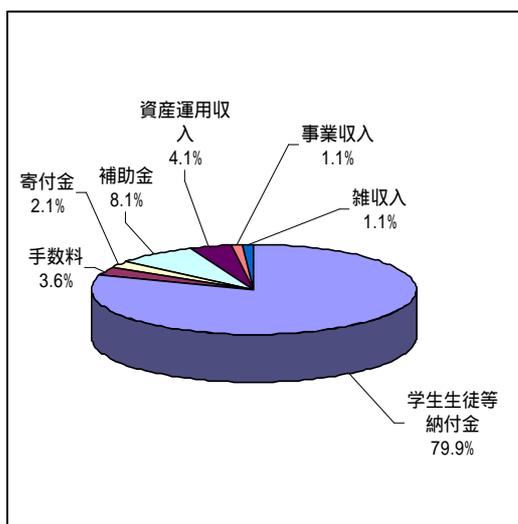
そこで、帰属収入から基本金組入額を控除した消費収入合計では、79億8,700万円の計上となり、6億2,800万円の減少となりました。

消費支出につきましては、中学校開校にともなう運営費として、人件費、教育研究経費、管理経費の計上があったものの、事務システムのオープン化の一時的な初期投資部分が大幅に減少したことなど各科目ともそれ以外のもので資金収支同様減少したため、1億2,800万円の減少となり、合計で109億9,100万円の計上となりました。

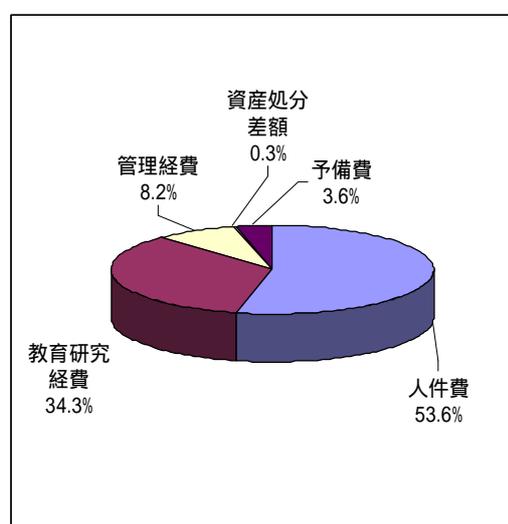
その結果、当年度消費支出超過額は5億円増の30億400万円となり、翌年度繰越消費収入超過額は33億3,700万円となる見込みです。

なお、消費収支予算における一般に「経常収支」といわれる帰属収入と消費支出の構成をグラフで表せば以下ようになります。

帰属収入の部合計 107億2,500万円



消費支出の部合計 109億9,100万円



2008(平成20)年度 資金収支予算書
2008(平成20)年度 消費収支予算書